



衣笠小学校 学校案内



所在地：〒238-0026

神奈川県 横須賀市 小矢部 2-16-1

TEL：046-851-0334 046-851-0102

FAX：046-851-0335

E-MAIL：admini@kinugasa-e.yknet.ed.jp

<沿革>

明治 5年 満昌寺に大矢部学舎開校・大明寺に
金谷学舎開校。

明治 41年 大矢部・金谷両校合併。傾城が原に
衣笠村立傾城が原衣笠 小学校として新築
移転。

昭和 8年 横須賀市に編入・市立衣笠尋常小学校と
改称。

昭和 9年 池上尋常小学校分離独立。

昭和 16年 横須賀市立国民学校と改称。

昭和 22年 横須賀市立衣笠小学校と改称。

(児童数 1397 名・24 学級)

公郷小学校分離独立。

昭和 37年 城北小学校分離独立。

昭和 48年 創立 100 周年記念式典挙行。

昭和 55年 大矢部小学校分離独立。

平成 2年 第 1 回ふれあい祭り開催。

平成 15年 創立 130 周年記念式典挙行。

平成 17年 五泉市との交流開始。

平成 25年 創立 140 周年。

校歌

作詞…落合賢一・作曲…菱田花江

一 歴史は薫る衣笠の

傾城が原にそびえ立つ

赤きいらかの学舎に

新しき道を拓かんと

集う我等の

集う我等の 衣笠校

二 名も麗しき衣笠の

城址に匂う花の雲

文化日本の明日をば

担いて立つ日を夢に見て

いそしむ我等の

いそしむ我等の 衣笠校

三 希望に明ける衣笠の

町にあふれる歌声に

挙げる諸手に意気高く

新しき郷土を造らんと

誓う我等の

誓う我等の 衣笠校

*二番「いそしむ我等の」は、
現在「励む我等の」と歌われています

1. 学区の概要

衣笠小学区の概要

衣笠小学校の位置は、東経139度40分02秒、北緯35度15分06秒で、三浦半島のほぼ中央部にあります。西側一帯には、衣笠山をはじめとする丘陵の山地が多く、その他の側は東京湾に至るまで平地が広がっています。学区は丘陵地のふもとの住宅や商店が密集しているなかにあります。また、大楠山を源とする三浦半島随一の河川、平作川が学区の北部から東部を流れ、南へ下っています。

衣笠は、遠く奈良・平安時代から、官道としての古東海道が通るなど、政治の面でも重要な位置にありました。平安時代の末期には、三浦氏が館を構え（現衣笠城址）天然の要塞として、三浦半島一円を支配しました。その後は、山ふところに抱かれた典型的な農村としての歳月が長く続きました。

1889（明治22）年の町村施行によって、衣笠・小矢部・大矢部・森崎・金谷・平作の6村が合併して、三浦郡衣笠村が誕生しました。1933（昭和8）年には、横須賀市と合併しました。第2次世界大戦後には、町界町名番地整理などによって、現在の町名になりました。かつては学区の広さもとても広がったのですが、池上小学校、公郷小学校、城北小学校、大矢部小学校の開校にともない、現在の学区域になりました。（学区図参照）

以前は閑静な農村であった衣笠ですが、現在はまったくといってよい程、その面影を失い、都市型の市街地へと変貌を遂げています。その要因として、幹線道路の整備により、周辺地域との行き来が容易になったこと、1944（昭和19）年の横須賀線衣笠駅開業があげられます。特に、衣笠駅前のできた商店街が大きな役割を果たしていると言えるでしょう。さらに1984（昭和59）年には、三浦半島の大動脈ともいえる横浜横須賀道路の衣笠インターチェンジが開通しました。それにより、他市との行き来もますます盛んになり、慢性的な交通渋滞に拍車をかける状態となっています。

2000（平成12）年3月には、三浦縦貫道が一部開通し、衣笠インターの入り口から長井に向かって高速道路ができ、三崎方面への交通が短縮されました。

学区および周辺には、行政センター（公民館併設）、児童会館、はまゆう会館、総合病院など公共施設をはじめとして、金融機関、スーパーマーケット、専門店など、人々の生活に必要な建物が軒を並べ、町の活性化につながっています。

衣笠商店街のアーケードも新しく作り変えられ、電柱が地下に埋め込まれるなど、景観に配慮した町づくりがすすめられています。2016（平成28）年3月には、6年生が衣笠の良さを紹介するパネルを、2018（平成30）年3月には、地下道案内版や衣笠ピースメッセージを衣笠十字路地下道に掲示しました。

また、衣笠山公園、衣笠城址、大楠山、万葉公園、菖蒲園、三浦氏ゆかりの史跡など名所旧跡や遊戯施設も多く、訪れる人々でにぎわっています。